

介護へ理解訴え 園児らパレード

松山

厚生労働省が提唱する「介護の日」の11日、介護への理解を深めてもらうと、県内の施設関係者ら約200人が松山市の中心商店街をパレードするなど啓発活動を行った。

活動は4年前から県老人福祉施設協議会などの主催で実施。11日は育英幼稚園など市内3幼稚園の園児が太鼓をたたきながら練り歩き、関係者がチラシを通行人に手渡し、介護について考えてほしいと呼び掛けた。



松山市の中心街を元気よくパレードする園児—11日、松山市大街道2丁目

また無料相談コーナーでは、サービス付きの高齢者住宅を探す市民の相談に対応。白内障の症状を再現する眼鏡や膝が曲がりにくくなる装具の貸し出しなども行われ、体験者は

高齢者の悩みを理解する一助をしていた。

同協議会の管家一夫会長(58)は「高齢化社会が進む中、介護はより身近な問題になっている。(介護する)自分だけで抱え込まず、仲間に相談してほしい」と話していた。
(和田亮)